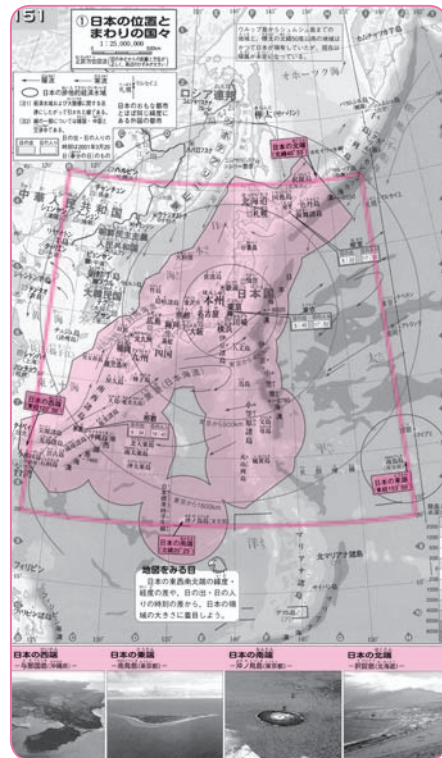


日本の範囲はどこまで？

大分市立植田東中学校 佐藤 尚

地理的分野において、「日本の位置と領域」は、その後の学習内容にとって基礎的な土台となり、また教養としても身につけておかなければならない内容である。ここでは、帝国書院『中学校社会科地図（初訂版）』（以下、地図帳）を活用した授業例を提案したい。

最初に、「日本の端っこはいったいどこだろう」と発問する。ただ端っこといってもわかりづらいため、東西南北に分けて、まずは何も見ずに予想で答えさせる。この発問に対し、生徒からは「北端は北海道の一番上、東端は北海道の一番右、南端は鹿児島？いや沖縄だ。西端は長崎？いや、やっぱり沖縄かな」などといった答えが返ってくる。日本の最端が島であるとはなかなか思いつかない。ある程度予想させてから、「では確かめてみましょう」といって地図帳p.151を開かせる。このページには日本の領域についての視覚的な情報が満載であり、ここから重要なポイントを読み取らせていく。**日本の最端がそれぞれ島であり、さらに東端と南端は、東京からかなり離れているにもかかわらず、東京都に属すること。日本の範囲がおおよそ北緯20~46°、東経123~154°であること**、などだ。このとき、「日本は北海道と本州、四国、九州の四つの大きな島と7000あまりの小さな島々からなる、面積が約38万km²の島国である」ことを付加する。地図帳p.151の下には、それぞれの島の概観を示す写真資料が用意されており、これによって、それぞれの島がどのようなものかイメージしやすくなる場所がよい。さらに生徒に興味をもたせるために、資料集など



帝国書院『中学校社会科地図（初訂版）』p.151

から、もう少し詳しい写真を提示すると面白い。たとえば、与那国島にある海底神殿、南鳥島にある气象台や滑走路、択捉島の学校のようなすなど。択捉の学校のようなすから、現在択捉島を含む北方領

土がロシアに占拠されていることにも気づく。さらに、沖ノ鳥島の護岸工事前後の写真資料を示し、「なぜ人が住めない島を守ろうとしているのか」と次の学習課題へ進める。領域は、領土、領海、領空だけでなく、近年は経済水域も重要な国益となっていることに気づかせたい。そして、もう一度地図帳に戻って、海上に描かれた太い青い線に注目させ、日本は国土面積はそれほど大きくないが、経済水域の大きさは世界でも有数であることに気づかせる。またこのページから、話題となっている竹島や尖閣諸島を取り上げ、日本の領土問題として発展的な学習を行うことも可能である。